

龍 声

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊
 発行編集所 〒959-1502
 新潟県南蒲原郡田上町
 曹洞宗 東龍寺
 電話 (0256) 57-3395
 FAX (0256) 57-2174
 ホームページ
<http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/>
 E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

再訪天竺

東龍寺住職 渡辺 宣昭

二月二十四日から、三月一日まで、インド・ネパールのお釈迦様の聖地を巡礼する旅（遊行会主催、総勢三十八名）に行かせて戴いた。

平成六年二月以来二度目の入竺だった。

二十四日正午に成田を発ち、約十時間の飛行の後、夕方インドの首都デリーに到着（三時間半の時差）。

その晩は、デリーのホテルに泊まり、翌朝（二十五日）三時四十五分に起床し、ラクノーへ飛行機で。さらに七時間のバス移動の後、最初の巡礼地「祇園精舎」に到着。

祇園精舎近くのコリアンテンプル（韓国寺院）に宿泊し、夜、上弦の月や北斗七星が輝く中、何千何万の灯の中を日本と韓国とスリランカの仏教徒がお釈迦様の名号を唱えながら行道し、供養を行った。精舎にお釈迦様がおられるが如くの神々しさだった。

二十六日は早朝からバスで移動し、シヤカ族の王子であったお釈迦様が幼少期を過ごされた王宮跡・ピプラーワーの参拝、そして、国境を越えてネパールへ入り、午後四時過ぎ、生誕の地ルンビニへ到着。十八年前から一変し、整備されたのにビックリ。



クシナガラの茶毘塚(お釈迦様が火葬されたと伝えられる場所)で導師をお勤めして 2月27日午後

翌日（二十七日）の朝食、御粥が出て、食事の偈文をお唱えした。「仏生迦毘羅^{ぶつしょうかびら}」、ああ、今お釈迦様のお生まれになった迦毘羅の地で食事を戴いているのだなあと感慨無量。いよいよ、涅槃の地クシナガラへ。六mの涅槃像が祀られている涅槃堂でお釈迦様のご遺言のお経をお勤めし、檀家から預かった写経を佛足に額を付けてお参りしながら納経させて戴いた。そして、一キロ程離れたお釈迦様

が火葬された茶毘塚へ。

再訪天竺（お釈迦様をお慕いした導師の法語）

春風二月好因縁

入竺児孫見古賢

十八載前圓寂地

茶毘塚下意綿々^{だびしょうか}

春風二月に有難い御縁を頂いた

法孫としてお釈迦様にお会いする

十八年前に訪れた涅槃の地

今お参りをして、思いが重なる

その後、最後の説法の地、お釈迦様に最後に食事の供養をした鍛冶工チユンダの村（現在はにぎやかな市場）のチユンダを記念するストウーパをお参りした。この巡礼の旅の中で最も密度の濃い一日だった。

二十八日は、お釈迦様の最期の旅を逆に辿り、ケツサリアのストウーパ※（インド最大のストウーパ。別れを惜しむヴェーサーリー市民たちと別れ、涅槃への旅を進めた場所）、ブツダの舍利の出土したヴェーサーリーのレリックストウーパを参拝。

旅行には、ハプニングが付き物だが、ケツサリアから、ヴェーサーリーへ向かう途中、大渋滞。何とその原因は、先の方で、雇用に不満をもつ人が、トラックでバリケードを作り道路を塞いだためだった。渋滞の先頭へバスを進ませ、僧侶四名で、現地の言葉で三帰依文を必死で唱えた。

ブツダン・サラナン・ガッチャーミ（帰依仏）

ダンマン・サラナン・ガッチャーミ（帰依法）

サンガン・サラナン・ガッチャーミ（帰依僧）

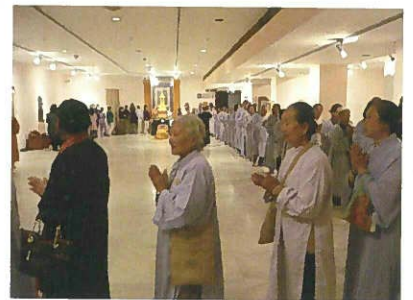
すると、トラックをバックさせて通してくれたのだ。

仏法僧の三宝に感謝。お蔭で、その後、長さ九キロのガンジス川に架かる橋を渡り、パトナ（ビハール州の州都）へ。夜の飛行機でデリーへ、無事到着。

二十九日は、インド門・ガンジー記念館・国立博物館・デリーの名所を巡る。国立博物館には、一九七三年にピブラーワで発掘された仏舍利（お釈迦様の遺骨）と舍利容器が展



祇園精舎での万灯供養 25日夜



仏舎利の周りを行道する信者 29日、国立博物館

度の様々な国からお釈迦様を慕って巡礼に来られた人々の行道の姿から、改めてその有難さ尊さを実感することができた。帰ってから、檀家のお通夜で、戒名をお授けする時、「私はお釈迦様の八十九代目の弟子、故人は九十代目の弟子ですよ」という言葉に特に、力が入る。引き続きお勤めする通夜歎仏の南無三世諸仏（ナムサンゼシヨブツ）を唱えながらの礼拝が、祇園精舎はじめ各聖地での礼拝と身口意が重なってくる。尊い巡礼の旅であった。

※ストウーパ

古代インドで土饅頭（覆鉢）型に土を盛り上げた墓。仏陀（釈迦）やその弟子など聖者の記念のため、遺骨、遺髪、所持品などを埋めて土を盛り、表面を煉瓦や石で固めて構築した。



ケツサリアの高さ31メートルのストウーパ

インド佛跡巡礼の行程

— ブツダ、最期の地を訪ねて —

(お釈迦様をブツダと表現)

26日

- ピプラワー、シャカ族王宮跡(カピラ城、カピラヴァツツ)
ブツダが青春時代を過ごした所
- ルンビニー、ネノバル領
ブツダ、誕生の地(コリアア国デーヴァダハへ行く途中)
新マヤ堂、アショーカー王石柱、誕生池

25日

- デリー → ラクノー → シュラヴァステイー
バス 舍衛城
- マハート 釈尊在世当時の大国コーサラ国の都
- サハート 祇園精舎
ブツダが25回も安居※を行った場所

23日

成田泊

24日

11時25分成田発
→ デリー着 18時20分
(プラス時差3時間30分、
日本時間21時50分)



※安居(あんご)：一定期間一カ所に止まり、
修行に専念すること

27日

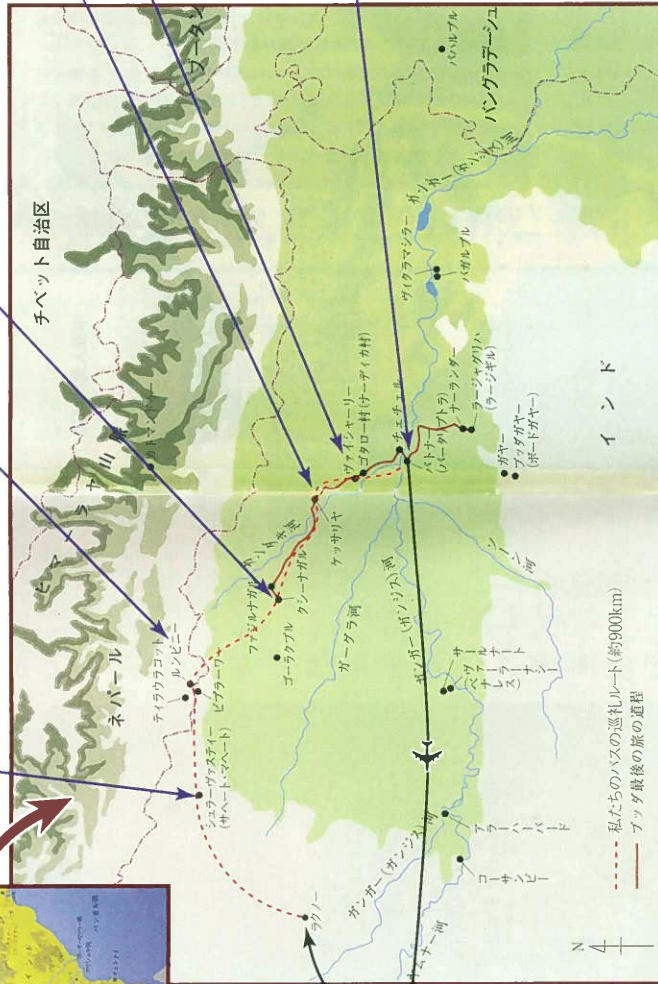
- クシナガラ(クシナーガール)、ブツダ涅槃の地
涅槃堂、荼毘塚
最期の沐浴の地、最期の説法の地
チュンダ(ブツダに最後の食事の供養をした人)の村

28日

- ケツカリヤ
インド最大のストウーパ
- ザアイシャーリー
ブツダ、最後の雨安居の地
- ◇ ブツダ・レリック・ストウーパ
ブツダの舍利の出土した所
- ◇ アショーカー王石柱
アショーカー王(BC.3世紀)、
マウリア王朝三代目、仏教を保護
■ バトナーへ
空路デリーへ

29日

- デリーにて
- ◇ インド門 ◇ ガンジー記念館
- ◇ 国立博物館
ピプラワーで発掘されたブツダの
舍利が展示
- ◇ ラージカート
インド建国の父、マハートマー・
ガンデーイの慰霊碑のある公園



檀徒総代に就任して

湯川 小池真一郎

檀家の皆様あけましておめでとうございます。
 昨年は、東日本大震災、新潟福島水害と大きな災害に見舞われ、さらに日本経済不況などで、不安を抱えた年でありました。今年は平穏で明るい年になることを願っています。
 実は、檀家総代役員である山川敏夫さんが、総代役員を引退することになり、後任として私、小池真一郎がつとめる事になりました。

山川敏夫さんは、長年総代役員として勤めてきました。古い話ですが私の父が役員をしていた当時からの役員で父も大変お世話になったことを思い、これもなにかの縁だと考え引き受けることにしました。

あらためて役員として、諸先輩の努力により今まで運営された事業を引き継ぎ、いま少子高齢化問題があらゆるところで問題になってきて、核家族化が進み檀家数の減少が予測されます。これからの課題として考えながら、檀家の皆さんの御指導をお願いして役員就任の挨拶とします。(平成二十四年正月)

〽 住職より一言〽

小池さんの御尊父権一郎氏は、私が修行を終えたばかりで住職になった当時の筆頭総代で、何もわからない私を優しく時には厳しくご指導くださいました。この度、親子二代に亘って総代をお勤め下さるご縁を頂き有り難く存じます。



総代会の折(右より小池氏、住職、渡辺氏、島山氏)

修証義に触れる

上野 滝澤 智

二十年程前に、故父から各種行事の引継を受け、何回か親類宅に参加した時の事、修証義と書した小冊を方丈様より渡されました。最初はお経を目で追うしか出来ませんでした。そのうちに方丈様より「私と一緒に仏様に対して声を出してお経を唱えましょう。間違ってもかまいませんから。」何度か繰り返して居るうちに、聞いたことのある経文を耳にしました。

あれ！この文句はお経の一節だったのかと初めて知ることが出来ました。それが修証義の最後、第五章『光陰は矢よりも迅かなり、身命は露よりも脆し……』この経文は明治時代、一般檀信徒にも解るような經典を、と望む声にこたえて作られたものと聞いております。

私も本山参りを！と云うことが心の片角にあった時、東龍寺様より本山参拝の誘いを頂き、永平寺、總持寺と尋ねることが出来ました。

雲水達の修行を実感することができました。開祖様の精神を次世代にも伝えるべく両本山共、昔ながらの様式を変えることなく勤めておることを知りました。道元禅師の悟



大本山總持寺御移転100年 田上本山講記念参拝 6月8～9日 筆者2列目左から2番目

りを深く知り我々一般檀信徒に伝えてくれるのでしよう。ちょうどその頃、自衛隊の観閲式を見る機会を得ました。黒衣の雲水、厳粛にして静寂角ばった自衛隊制服で号令と整列、まったく対照的であるが、目的行動は違えど、人間の本質は同じでなからうか。

東龍寺方丈様におかれましては、道元禅師の悟りを深く研究され、曹洞宗管長様の命により全国のお寺にお出掛けになり布教に勤めて居るのです。

『何れの善巧方便ありてか過ぎにし一日を復び還し得たる。徒に百歳生きらは恨むべき日月なり。悲しむべき形骸なり』。

〳 住職より一言〵

滝澤さんは、小生の通夜説教をいつも真剣に聞いてくださり、お会いする機会があると話の内容についてお尋ね下さいます。お蔭で怠らずにお話ししなければと、身を引き締めさせて頂いております。

縁は不思議

加茂市 鈴木輝暁

1. ご挨拶、新潟県との縁

鈴木輝暁(すすきてるあき)と申します。一昨年(平成二十二年)三月末に新潟県民となりました。生れて以来の神奈川県民から新潟県民になった縁は、転職です。前職は、(株)東芝および東京エレクトロニクスシステムズ(株)(東芝の一〇〇%子会社)で、主として官庁向けコンピュータ利用システムのシステム技術者をしておりました。現職は、加茂市にある新潟経営大学経営情報学部 (<http://www.niigataum.ac.jp/>) で情報科目担当の教員をしております。

2. 東龍寺様との縁

転居・転職の挨拶の返信で、私の出身大学の研究室の方か

筆者



成道会坐禅会の茶話会

ら、渡辺住職が大学の同窓生ということを知りました。まさか電気・情報工学を修めて、お坊さんになられた方がいらっしやるとは思っていませんでした。

また、お寺は家からも近いという縁で、坐禅会や加茂法話会に、家内ともども参加させていただいています。ちなみに、坐禅は興味がありました、したことがなく、良い機会を得ることができました。坐禅では、「呼吸」が非常に大

切ということを改めて気づきました。特に、言葉どおり最初に「呼」(息を吐く)を行わないと「吸」が十分にできない点です。深呼吸というのと、つい最初に「吸」おうとして、きつくなっていました。「呼吸」の順序どおりだな!ということを実感した次第です。このような、日常では得られない気づきなどあり、毎回楽しみにしております。

また、先日の加茂法話会にて、iPhone(アイフォン)などで有名な米国アップル社の前会長 故・スティーブ・ジョブズ氏が禅に非常に興味を持っていて、米国での禅の師匠が加茂市出身の故・乙川弘文師であることを知りました。地元出身の方が関わっていたことを、新潟に来てまだそれほど日が経っていませんが、誇りに思っています。

3. 田上町との縁

佐渡を活動拠点にして世界的に有名な「鼓童」という和太鼓グループがいます。神奈川県にいたときからCDを聞いたり、家内とコンサートに行ったりして、是非、和太鼓を叩きたいと思っております。偶然、田上町にある「田上甚句保存会」を知り、その中の「護摩堂太鼓」というグループに、昨年十

一月から家内と二人、週1回の練習に参加させていただいております。

今年(平成二十三年)三月に田上小学校卒業式での演奏となり、とても緊張しました。演奏の二日くらい前からは時間が少し空くと、太鼓の音が頭の中を廻っていました。また、今年の夏・秋は、勤務先の大学祭を始め、いろいろな所で太鼓を叩かせていただきました。

このような縁を、これからも大切にしていきたいと思っております。

〽 住職より一言〽

鈴木さんが、加茂法話会に最初にお見えになった折、大学の先輩であることお聞きしビックリいたしました。お話の中で触れられた乙川弘文師(知野弘文師)は、「知野」姓の時、私と義理の従弟でした。世間の狭さと、出会いの素晴らしさを感じております。

眼蔵会に参加して

新潟市中央区 大倉 順子

六月二日、四日迄、二泊三日の眼蔵会に始めて参加させて頂きました。僧侶の方々と一般の人と共に学問と修行を行う法会との事。今年で十回を迎えられたとの事。

十回目の出席の方が何人かおられたり、遠く四国から出席の人とか、皆さんの一生懸命さが、伝わりました。

一日目、午後二時から始まり、最初に東日本大震災で亡くなられた方々に、ご冥福のお祈りから始まり、角田先生の講義が計六回、坐禅が計六回

三日間本堂でお勤め。二日目のお勤めは眼蔵会参加者の為に「釈尊降誕会出班灌沐」をして下さり、莊嚴な読経の内に全員お釈迦様に甘茶をお掛けして焼香をさせて頂きました。加えて参加者の名前を読み上げて先祖供養もさせて頂きました。



眼蔵会を終えて、筆者2列目右より番目

角田先生は方丈様と永平寺で共に修行をされた法友とか、今回は「正法眼蔵」の中より「道心」「生死」の巻を講義して頂きました。現代の事柄に置き換えて分かりやすく説明をして頂きました。先生のお話の中で心に残っている言葉を記します。

①「生まれながらにしてすべての人は平等である」

②「お釈迦様は、良い事をして、悪い事をするな」

③「坐禅は真つすぐな姿勢で坐ると正しい考えが浮かび正しい行いもできるようになる」

④「今此の場所で眼蔵会に参加している事こそが道心の心を持つている。今此の場所は、仏の家である」

楽しみのお食事は、心の込もった精進料理を僧侶の方に親切に作法を教わり給仕をして頂いた事は、この上ない気持ちで美味しく頂きました。両親が亡くなり、方丈様との出会いがこの度の三日間につながったと思います。東龍寺様のお母様、奥様には心温まる接待をして頂き、心に大きな宝物を得た気持ちにさせて頂きました。

三日間、共に関わられた方々に感謝申し上げます。

〽 住職より一言〽

大倉さんは、檀家の坂口与三郎家の出身で近年ご両親が続けて亡くなる悲しみの中で、禅の教えに関心を持ってくださいました。NHK文化センターでの坐禅やご実家での毎月のお参りにも参加され、有り難く思っております。

【東龍寺年中行持】

- 七月 金毘羅大祭
- 八月 一日 うらぼん会(盆参)
- 八月廿四日 水子地藏尊並びに観音様大祭
- 九月廿二日 秋のお彼岸会 (お彼岸の中日)
- 十月 常齋米法要
- 十月三十日 除夜祭(除夜の鐘)
- 十一月 大般若祈祷会
- 一月 一日 寺年始(近隣の檀家)
- 一月 二日 寺年始(遠方の檀家)
- 三月 廿日 春のお彼岸会 (お彼岸の中日)

【平成二十三年度事業、行持報告】

- 一、六月二日(木)～四日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆先生を講師に、第十回眼蔵会を講本「生死の巻」「道心の巻」で、五十九名の参加で開催した。
- 一、六月八日(水)～十日(金)に田上本山講主催の「大本山總持寺参拝と箱根・静岡方面の旅」を四十一名の参加で行った。丁度、總持寺が能登から横浜鶴見に移転して百年の記念法要「傳光法会」お参りさせて頂いた。
- 一、十月九日(日)午後七時より、



秋の講演会 篠原鋭一老師 10月9日

田上町仏教会では、東龍寺会場に、「自殺防止姉とネットワーク」風理事長、千葉県長寿院住職・篠原鋭一老師をお招きし、第十六回秋の講演会を行った。

一、十一月一日、二十二世内室實心貞道禪尼が発願し、昭和五三年越後三十三番巡拝から始まり、平成二十二年庄内三十三番巡拝まで、三十三回に渡る観音霊場巡拝を締めくくるはんばきぬぎを行った。



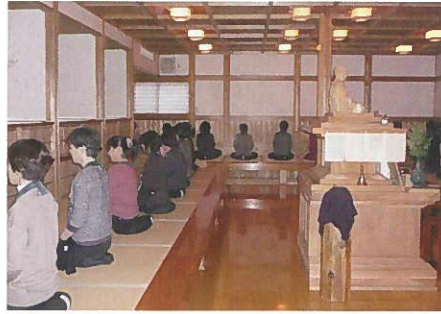
観音霊場巡拝はんばきぬぎ 11月1日

一、住職は二月二十四日～三月一日まで、事務局長を務めている遊行会主催のインド佛跡巡拝の旅に参加した。

【参禅の報告】

- 一、加茂市花屋仁助一行、十五名名参禅。
- 一、四月二十三日、「第三十一回卯辰会の集い」(代表三条市・内山莊二)十九名。
- 一、五月二十七日、須佐製作所一行十三名。
- 一、六月二十八日、「栲くみあい企画・さつきホール・さつき会館」一行十六名参禅。
- 一、七月三日、田上小学六年生親子坐禅。総勢五八名。
- 一、七月七日、田上小三年生、総合学習。四九名+先生二名。
- 一、八月十七日、ポランティアチャレンジスクール「坐禅体験」二十名、引率三名。
- 一、九月二十七日、加茂市大昌寺、葵幼稚園祖父母会参禅。十四名。
- 一、十月三十日、第四宗務所、第三教区護持会坐禅研修会。十一ヶ寺、三三名。
- 一、十月三十一日、第一宗務所支部研修会。宗務所員職員含め三四名。
- 一、十一月二日、田上ライオンズクラブ一行十一名。
- 一、十一月十三日新潟市馬越・加賀田家姉妹会九名。

- 一、十二月五日、三条市鹿峠ゲートボールクラブ一行十一名。
- 一、十二月八日、新潟経営大学・和田ゼミ一行十五名。
- 一、十二月二十三日、三条ローターアクト一行八名参禅。
- 一、一月十五日、新潟市東部運送、二八名。



新潟県第一宗務所寺族研修会

【平成二十四年度事業、行持案内】

- 一、六月二十一日(木)～二十三日(土)に、駒澤大学教授角田泰隆先生を講師にお招きし、第十一回眼蔵会を講本「礼拝得髓の巻」で、開催する。
- 一、十月七日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、大分県勝光寺住職南慧昭老師をお招きし、第十七

回秋の講演会を予定している。老師はシンガーソングライター南こうせつ氏のお兄様です。

【月例加茂法話会】

- 一、毎月一回、夜、加茂市穀町商店街振興組合二階を貸り、僧侶七名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

- 一、月例坐禅会を毎月第二土曜日、夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

- 一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。

【梅花講のお知らせ】

- 一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。
- お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【その他の照光殿での催し】

- 一、大正琴のお稽古を先生をお招きし、有志で行っております。興味のある方、のぞいてみませんか。

【お寺よりの御礼とお願い】

- 一、今年は、お盆の棚経回りを左記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いします。

◆お盆前住職

新潟・亀田・三条・巻・燕・白根・長岡

◆十三日住職

中山・赤浜・笠巻・三ツ屋・三枚潟・市ノ瀬・新津・覚路津

◆お盆中住職

川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場・羽生田・川船河

◆光明寺様

本田上・山崎・山田・湯古屋・加茂地区

◆少林寺様

上野
◆少林寺若様
湯川・谷・中店

曹洞宗 心の電話

〇二〇一五〇八七四〇

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、三分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。二十四時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

東龍寺住職も平成十八年度より、年二回担当しております。本年度は、八月十四日～二十日、一月十五日～二十一日です。

編集後記

寺報二十四号を発刊するに当たり、小池真一郎氏、滝澤智氏、鈴木輝暁氏、大倉順子氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。

今冬は、二十数年ぶりの大雪にみまわれ、東龍寺では開山堂の垂木が折れるなどの被害が出ました。近年は自然災害が増えています。十分な対処をしていかねばと念じております。

住職合掌